

### 3. 13 生活を科学する

1. 対象学年 2・3年生

2. 担当教員 栞原 智美 浅井 百合香

#### 3. テーマについて

実習の楽しさを知り自分の生活に結びつけながら考え、学び、発展させていけることをテーマとしている。自立、協働、創造する力を身につけるため、実践的・体験的な学習を通して活動をさせたい。力を合わせてまとめ、話し合い、知恵を出し合うことにより、自分以外の人の考え方や、経験に触れることで自分自身の考えが深まると考えた。公共の精神を培う機会にもなる。「食」「環境」などを考えながら、自分たちでテーマを決め、それを多角的に深めて、家庭科室で予備実習をし野外で調理する。非常時はガスや電気は使えない可能性も大きい。何が自分たちで出来るのかを一緒に考え、身近な生活を科学しながら、実現可能な技術を習得する体験をし、コミュニケーションを取りながら活動をしていく。現在の自分の生活と非常時を結びつけながら考え、いざという時に、自分にも周りにも役立つ知識と技術を習得し、工夫することのできる前向きな姿勢を育て、学びを発展させる機会を得ることを目的とする。「調べ・実習・まとめ」を個人ファイル作成と班活動で実践していく。生徒32名の活動である。

#### 4. 学習の展開【平成27年度の学習計画】

実施予定日	日付	内容
第1回	5/1	オリエンテーション・班決め・テーマ決め
第2回	6/5	全体計画を考える
第3回	6/12	食材および関連材料調べ・献立決め
第4回	6/19	試作実習
第5回	7/8	実習計画（試作実習）
第6回	9/4	試作実習・中間ふり返り
第7回	9/11	事前講演・打ち合わせ
第8回	9/25	野外実習（オリンピックセンター）
第9回	10/23	試作実習
第10回前日準備	11/5	総合まとめ・発表会準備
発表会	11/6	学習の成果発表（展示・ファイル・ビデオ・試作品作り・レシピ展示）
学習の評価・まとめ	12/1	学習の評価・まとめ

#### 5. 学習の概要

「体験」をテーマに、いざという時に中学生でも生活に役立つことを自分たちで考え、活動体験をするというテーマで学習した。いざという時に周りの人も、自分も元気になることができることを考え、その調理をすることを目標として家庭科室で考え・試作、野外活動で実践した。調べ学習の内容を共有することでコミュニケーション能力を育てる協働、共感の1つの機会となると考えた。本・インターネットを活用して調べ、個人ファイルの作成と班における展示用の模造紙作成や協力して実施する試作実習、野外炊事など多くの要素が存在した。学校図書館、PC総合学習室を使用し、正しい情報収集の仕方を学びながら記録にまとめる学習の機会とした。野外実習前の授業時に野外炊事実施施設（オリンピックセンター）の方からの全体講義・用具の説明・班別相談の時間を取った。今年度は非常時でも簡単に手に入るものを使用した調理などを考える班が多くみられた。特に乾麺を使った班は、乾麺をゆでて広島風お好み焼きやスパゲッティや中華の炒め物など多くの調理を自分た

ちで考えていた。味も通常の調理と同じように仕上げていた。非常時でも応用の効くものとして小麦粉を使用した班も複数あった。小麦粉を使用し主食の麺を打つ、ピザを焼くなどだけでなく、非常時も元気が出るようにとクレープ、ケーキなどのお菓子類を作る班も複数あった。

## 6. 今後の課題

「自分たちの片づけはもちろん、終わったら他の班にも協力できた。」という感想が複数あり、計画的に見通しを持って活動ができ、周りの人たちを考えることのできる機会ともなった。実践的・体験的な学習を通して、実習の楽しさを知り自分の生活に結びつけながら考え、学び、発展させていける可能性を感想より読み取ることができた。生徒たちはうまくできたことばかりではないことへも反省をしながらも活動を前向きに振り返っていた。

(本活動は日本教育新聞 平成 27 年 10 月 12 日掲載)

家庭科室で試し調理：



①紙カップ使用のケーキ



②何でも挟んでクレープ



③小麦粉と缶詰あん使用



④インスタント袋麺（ゆで）



⑤④を使用してお好み焼き



⑥小麦粉から擀作り

野外で実践：



⑦1班で何種類も作った班も



⑧野外でお菓子作り



⑨トマトとパンで一品

事後の生徒の感想より

準備実習の個人感想	準備実習の班行動の感想	野外学習の個人感想	野外実習の班行動の感想
料理だけでなく、準備やかたづけもしっかりできた。	手ぎわよくつくれて、役割分担でかたづけもはやかった。	自分の役割を果たし、協力して料理を完成させられた。	自分たちの片づけはもちろん、終わったら他の班にも協力できた。
「仕事がない」という状況が無いように自分から仕事を見つけて作業した。	班のメンバー全員で役割分担をしよう、みんなで協力しながら作業できた。	調理がおわるまで火が消えないように真剣に火の番をしたり、焼き具合を見たりした。	調理係と火係にわかれて時短できるように協力した。
レシピを調べてくることやどんな工夫をしたら良いかを考えることなど貢献することができた。	班のメンバーでそれぞれ役割分担を行ってなるべく早く準備、片付けを終わらせることができた。	直接的に料理をするというよりも片付けを少しずつする、料理の下準備を予めしておくなどで貢献することができた。	家庭科室とは環境が全く違い、戸惑うこともあったけれどみんなで協力して手際良く行うことができた。
自分に出来ることを見つけ、効率よく進むようにした。	班で仕事を分担し、効率よく、おいしく取りくめた。	限られた物を使い、いかに効率よく進められるか考えられた。	班で仕事を分担し、声をかけ合いながら慣れない環境でもうまく進められた。
自分が今しなければいけないことを判断し、精力的に活動できた。	比較的みんなで頑張って動いて、スムーズに進んだ。	ハプニングもあったが常に動いていた気がする。	グループのメンバーで役割を分けて、協力して調理できた。

(文責 栗原智美)